

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	社会福祉法人京都基督教福祉会 桂 保 育 園	施設 種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

令和 4 年 7 月 6 日

総 評	<p>桂保育園は、社会福祉法人京都基督教福祉会で最初に誕生した施設で、2019年1月17日で創立70年を迎えています。桂駅の近隣に位置し、共働きの若い世帯も多く居住する地域で、キリストの教えに基づき、保育を必要とする児童とその保護者や家庭の幸せを祈り、児童福祉法の定めるところに従って保育を行っています。</p> <p>保護者と共に育てていくことを保育方針に揚げ、「子供たちが安心して過ごせる場所」という思いから、日々の保育は、年齢別クラスを基本に、発達過程に応じて、「空フロー」(0、1歳児)、「大地フロー」(2歳児～5歳児)と名付けた空間において、子どもたちが一緒に生活し、異年齢混合の生活基盤で一人一人を大切にしながら、きめ細やかな保育を実践しています。</p> <p>園長は「共に育つ」という理念のもと障害児を積極的に受け入れ、保護者には、入園時及び園見学时に障害のある子がいることを伝え、どの子に対しても分け隔てなく、子どもの特性を大切にし、保護者とコミュニケーションを密に取り、子どもの意思や自主性を尊重しつつ、その成長を促せるよう、職員も共通理解、共通認識のもと保育を実践しています。</p> <p>地域の福祉向上のために新型コロナ禍の中、工夫しつつ園庭開放、一時保育、子育て相談、子育て講演会、育児相談など地域の育児力向上を図る活動を行いながら、併せて、子育て家庭を支援するため西京はぐくみ会、保健センターと連携を図り、緊急の子育て相談や小学校、児童館、民生委員と情報交換を密にする等、ネットワークを広げ、子育てを応援・サポートしています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長は保育の質の向上について職員の意見を聞き、園内研修を通して課題を把握・分析し、併せて職員の勤務状況を把握しています。人事、財務、労務を踏まえた経営分析を行い、職員に財務状況を説明し、労務の軽減を考慮し、各クラスにパソコンを増設するなど、業務の効率化、省力化を行い、管理能力を発揮しています。 ・職員一人一人の育成に向け、年度当初に職員一人一人が個人目標を設定し、3ヶ月毎に見直しを行っています。施設長は面談で中間、年度末に目標の進捗、達成度の確認を行い、職員一人一人の育成に取り組んでいます。また職員全員に研修の機会が保障されており、研修受講後は、職員会議で報告し園内研修に繋げ保育に活かしています。 ・子どもに関する保育の実施状況の記録については、記入内容に差異が生じないように記録に努め共有フォルダに保存するなど、一人一人の子どもの情報を職員間で共有しています。記録の管理については文書管理規定及び個人情報保護規程等に基づき、遵守しています。

<p>特に改善が 望まれる点（※）</p>	<ul style="list-style-type: none">・単年度の事業計画は策定されていますが、3～5年を見据えた中・長期計画は 現在法人本部において策定作業中です。・個人情報の取り扱いに関しては、重要事項説明書に記載し、保護者に同意書を得て、その使用法を明確にしています。保育室は、生活の場として快適に過ごせるようコーナーを設けるなど環境設定を工夫されていますが、トイレ、おむつ交換は、仕切りを使用する等、生活の場面でのプライバシーと心地よい環境を守れるよう配慮されるとより良いでしょう。・福祉サービスの標準的実施方法に関しては、子ども一人一人の発達に沿って行う保育の関わり方、配慮事項、基本的な事項などについて、複数の担任で子どもを見守ることで、保育を実地で伝えるOJT環境が整えられています。積み重ねてきた経験を文書化し、保育全般にわたり現場での標準的な実施方法についてのマニュアルを整備するとより良いでしょう。
---------------------------	---

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	社会福祉法人京都基督教福祉会 桂 保 育 園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	令和4年7月6日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a

[自由記述欄]

・法人の理念、方針、保育目標はホームページ、園のしおりなどに明文化され、職員には職員会議や全体計画にも記載するなど周知しています。保護者には入園説明会で「園のしおり」を配布し、説明しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	a
		3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	b

[自由記述欄]

・社会福祉全体の動向は京都市保育園連盟、西京園長会、経営協会等の会合に参加し、情報を収集しています。地域の福祉に対する需要、子どもの人口推移も西京はぐくみ会、桂東子育て連絡会、京都市から情報提供してもらっています。財務状況は定期的に会計事務所に分析を依頼し把握しています。

・経営課題である職員の働き方、体制を明確にし、経営状況や改善課題を分析していますが、具体的な取り組みまでは至っていません。今後は改善解決に向けた具体的な取り組みを構築されると良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c	b
		5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c	b
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	b
		7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	b

[自由記述欄]

・単年度の事業計画は策定されていますが、3～5年を見据えた中・長期計画は策定されていません。現在法人本部において策定作業中です。

・事業計画は年度初めに管理職、フロア会議で策定し、職員からの意見は職員会議、クラス会議を通して周知し、実施した計画は評価・反省・見直しを行っています。保護者にはコロナ禍以前は保護者会で説明・配布をしていましたが、今年度はコロナ禍のため、説明は行われていません。コロナ禍においても周知理解を促すための具体的な取り組みを計画・実施されると良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取り組み	1-4-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的・計画的に行われている	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	b
		9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	b

[自由記述欄]

・保育の質の向上に向け、ヒヤリハット、苦情、行事の委員会を立ち上げ、年計画を基に、期・月毎に評価、振り返り・見直しを行い、保育の質向上に努めています。今後は評価基準に基づいて、園全体の自己評価を行い、明確になった課題を職員間で共有し、記録に残し、改善策を計画・実施されると良いでしょう。

・第三者評価受診後、明確になった課題を記録に残し、職員間で共有し、改善策を話し合い改善計画を策定しています。今後は改善結果について文書化し、全職員に周知し、見直しをされると良いでしょう。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任と リーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	b
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a

[自由記述欄]

・施設長は自らの役割と責任を職員会議で明確にしています。今後は職務分掌を文書化し、不在時の職務権限委任も明確にし、職員に周知されると良いでしょう。

・施設長は保育の質の向上について職員の意見を聞き、園内研修を通して課題を把握・分析し、併せて職員の勤務状況を把握しています。人事、財務、労務を踏まえた経営分析を行い、職員に財務状況を説明し、労務の軽減を考慮し、各クラスにパソコンを増設するなど、業務の効率化、省力化を行い、管理能力を発揮しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・ 育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事 管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	b
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a	a

[自由記述欄]

・人材育成、人材確保の基本方針の考えに基づき、人材確保については就職フェアに参加したり、ホームページに募集ページを載せて対策を行っています。人材育成についても具体的なプランのもと、OJT担当を置き、園全体で取り組んでいます。ただ途中退職者に対する補充対応、人手不足に対しては、現在、法人本部の全部門で人材確保の計画について統一化を図っているところであります。

・総合的な人事管理（基準）は法人本部で取扱っており、職員にも周知されています。職員が自分の将来の姿を描くスキルアップ支援が構築されています。

・「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証を取得し、職員の心身の健康、安全の確保を心がけ、職員と年3回以上の個別面談を通して、職員の就業状況や、意向・意見などの把握を重ね、短時間労働や時間外勤務及び時間休、有給休暇、特別休暇などの取得について、具体的な改善策を構築する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・ 育成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	b
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる 専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	b

[自由記述欄]

・職員一人一人の育成に向け、年度当初に職員一人一人が個人目標を設定し、3ヶ月毎に見直しを行っています。施設長は面談で中間、年度末に目標の進捗、達成度の確認を行い、職員一人一人の育成に取り組んでいます。また職員全員に研修の機会が保障されており研修受講後は、職員会議で報告し、園内研修に繋げ保育に活かしています。

・実習生受入マニュアルを整備し、事前のオリエンテーションで実習内容全般を計画的に学べるプログラムを作成し、手引書に沿って丁寧な説明を行っています。今後、実習指導者に対し、受入れの意義などの事前研修を行う等、さらに受け入れ体制を整備されるとな良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目		評価結果	
					自己評価	第三者評価
II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	b
		22	②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	a
[自由記述欄]						
<p>・法人のホームページにおいて、理念や方針、事業計画などを公開されており、誰でも閲覧できるよう情報の公開に取り組んでいます。現在、園独自のホームページ策定を検討中であり、園の進む方向性や特色を地域の人に広く周知できることが期待されます。</p> <p>・経理規程に基づき会計事務所の監査を受けています。法人内監査も年3回受け、公正かつ透明性の高い適正な経営運営のための取り組みを行っています。</p>						

評価分類	評価項目	通番	評価細目		評価結果	
					自己評価	第三者評価
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	b
		24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	a
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	a
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	①	保育所が有する機能を地域に還元している。	a	a
		27	②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	a
[自由記述欄]						
<p>・子どもと地域との交流をひろげる取り組みについては、新型コロナウイルス感染症流行以前は、小学校の移動動物園のお手伝い派遣、出前保育、園庭開放等、地域交流を深めてきました。今後は、地域との関わり方について、基本的な考え方を文書化されるとうれしいでしょう。</p> <p>・ボランティア受入マニュアルを整備し、中学校の職場体験、高校生のインターンシップ、卒園児遊びにおいてよ等の受け入れ、地域の学校の学習への協力をっており、地域社会と繋がる役割を担っています。</p> <p>・子どもにより良い保育を提供するために児童相談所、西京はぐくみ会、桂東学区、地域の民生委員、児童委員と共に地域の関係機関と連携し、積極的に取り組んでいます。また、法人のスケールメリットを生かし、児童発達センターの巡回相談において、アドバイスや助言を受け、保育に活かしています。</p> <p>・園の機能を地域に還元する取り組みとして、園庭開放、一時保育、休日保育、子育て講演会、子育て相談、育児相談（電話相談、面接相談）、離乳期の子育て支援（離乳食を作ってみる会）等、地域の育児力の向上を図る活動を行うと共に、子育て家庭を支援するため、西京はぐくみ会、保健センターと連携を取り、緊急の子育て相談や小学校、児童館、保健所、民生委員と情報交換する等、ネットワークをひろげ、子育てを応援し、サポートしています。また災害時の衛生用品や水も備蓄し、災害時に一時的な避難場所として園を提供する等、様々な取り組みを行っています。</p>						

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	b
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	b
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b	b

[自由記述欄]

・子どもを尊重する姿勢については「理念」「方針」「目標」「めざす子ども像」に謳われており、園のホームページやしおり等で、地域の社会や保護者に周知しています。法人の理念を伝える年主題「ここをつなごう」の振り返りの話し合いを職員で行い、子どもの関わりについて組織として共通の理解を持つための取り組みを行っています。

・個人情報の取り扱いに関しては、重要事項説明書に記載し、保護者に同意書を得て、その使用法を明確にしています。保育室は、生活の場として快適に過ごせるようコーナーを設けるなど環境設定を工夫されていますが、トイレ、おむつ交換は、仕切りを使用する等、生活の場面でのプライバシーと心地よい環境を守れるよう配慮されるとより良いでしょう。

・園児学者には個別に「入園のしおり」で丁寧に説明しています。園の情報もホームページに掲載し、保育に変更がある際はプリントを配布し、クラス懇談会などで説明し、理解を促しています。また保育の終了時や転園の時には保育要録を送付する等継続性にも配慮しています。卒園後の相談窓口の案内を口頭で伝えるだけでなく、保育終了後の相談方法や担当者名を記載した文書を作成し渡すと、なお良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a

[自由記述欄]

・苦情解決の仕組みが整備され、第三者委員などの連絡先を含め、重要事項説明書に記載し、園内にも掲示し、保護者にも連絡周知しています。保護者には、朝夕の送迎時に話しやすい雰囲気心がけ、日々連絡ノートを使用し、相談日を設定したり、保護者が意見を述べやすい環境を整備しています。相談がある時は、事務室を使用し、担任・園長・主任等と行っています。

・意見・要望・苦情等の対応マニュアルを整備し、保護者から受けた苦情や面談をした際は、園長・主任に報告し、解決策を検討し、記録に残しています。アンケートで集約した意見、要望などについては職員会議で話し合い、職員間で共有し、検討した内容について保護者にフィードバックしています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	b
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	a
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	b	a

[自由記述欄]

・ヒヤリハット委員会を立ち上げ、日々の保育の中で、ヒヤリハットの危険個所の情報を収集し、職員会議で共通認識し、再発防止策を検討しています。事故発生時の安全対応マニュアルに基づき、事故の要因分析と改善策を実施し、改善後は記録に残し、リスクマネジメント規定として定め、リスクマネジメントに関する取り組みとして活用されると良いでしょう。

・感染症に対するマニュアルを作成し、園内で感染症の発症や恐れが確認された際の対応方法が明示されています。また流行っている感染症発症時は感染状況について保護者に掲示で伝えと共に一斉メールで周知し、拡大予防に努めています。

・災害時に対応できるよう防災委員会を立ち上げ、防災マニュアルを作成し、災害時の職員体制や保護者への周知方法も整備しています。また備蓄品はリスト化し使用期限を含め一括で管理できる体制を整備しています。

・不審者対応マニュアルを整備し定期的見直しを行っています。警察との連携のもと、マニュアルに基づいて職員で研修を行っています。

	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	b
		41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	b
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a	b
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	a
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a

[自由記述欄]

・福祉サービスの標準的な実施方法に関しては、子ども一人一人の発達に沿って行う保育の関わり方、配慮事項、基本的な事項などについて、複数の担任で子どもを見守ることで、保育を実地で伝えるOJT環境が整えられています。積み重ねてきた経験を文書化し、保育全般にわたり現場での標準的な実施方法についてのマニュアルを整備するとより良いでしょう。

・入園時の保護者との面談において、保護者の意見・要望を聞き、個別計画を作成し、日々の保育の中で定期的に見直しを行いつつ、一人一人の子どもの主体性を重視し、年間計画及び月案・週案・日案を作成しています。入園後は計画の通り振り返りや評価・反省・見直しを行っています。今後は指導計画の作成について手順を明文化し、実施されるとなお良いでしょう。

・子どもに関する保育の実施状況の記録については、記入内容に差異が生じないように記録に努め共有フォルダで保存し、一人一人の子どもの情報を職員間で共有しています。記録の管理については文書管理規定及び個人情報保護規程等に基づき、遵守しています。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	a	a
		47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	b
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a

[自由記述欄]

- ・全体的な計画は保育所保育指針に準じ、保育理念・方針・目標に沿って作成し、職員会議で検討し編成されています。年度末に職員全員で評価見直しを行い次年度に繋げています。
- ・ランチルーム、お昼寝専用の部屋はありませんが、ホールを利用するなど工夫しています。また0歳児の部屋にはお昼寝用の扉付きの畳スペースがあり、起きている子どもも心地よく過ごせるよう配慮しています。
- ・高齢者施設で子どもたちがさつまいもを栽培したり、歌や手遊びを披露したり等の交流を、コロナ禍でしばらく中止していましたが、今後はズームを使った交流を計画するなど手法を工夫しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	a
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づき、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a

[自由記述欄]

- ・発達過程で生活できるように部屋を分けたり、自由遊びの中で子どもたちの興味や発達過程に応じた遊びを提供できるように環境を整えています。2歳児は無理なく幼児フロアに移行するなど、不安に思う子どもの気持ちを受容し受け止めたり、尊重しながら環境の整備や保育の内容や方法を工夫し、配慮されています。
- ・保育の理念や方針を踏まえ、入園時に障害保育を実施していることを伝え、障害のある子どもを積極的に受け入れて、障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して、共に成長できるように環境を工夫し、一緒に生活する中で、安心して過ごすことができるよう配慮し、取り組んでいます。
- ・長時間保育については、全体的な計画（月の指導計画）の中に記述されており、ゆったりとした環境の中で過ごせるような保育の内容や方法を整備し、保育士間の連携や保護者との連携等に配慮しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	b
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b	b
	A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

[自由記述欄]

・SIDSの予防に0・1歳児には5分に1回子どもの様子を確認し、記録を取っています。保護者への情報提供については「保育園の生活」などへの記載や啓発ポスターを継続して掲示するなど情報提供されると良いでしょう。

・アレルギー疾患や食物アレルギーに関しては、医師の指示書に基づいて対応し、保護者との食材の確認を保育者、栄養士と行き、アレルギー対応食にはトレーにのせて、名前・アレルギー食材を書いた札と子どもの写真も載せて、誤食防止に努めています。今後は職員への誤食時の訓練や研修を行い、他の子どもや保護者に理解を得る為の取り組みを検討されるとより良いでしょう。

・コロナ禍の現在、感染対策の中で対面での黙食を促して、食事の楽しさより衛生面への配慮を優先せざるを得ないが、毎日の生活と遊びの中で、食に関わる体験をして楽しめよう、きゅうり・スイカ・かぼちゃなどを栽培し、収穫して食べる楽しみやクッキングの楽しみ、また幼児には陶器の食器を用意するなど、食の楽しさを育んでいます。また献立は栄養士が旬の物や季節感のある食材を使用し、行事食などを提供し、子どもの食べている様子を見たり、子どもたちの話を聴くなど、献立作成への工夫に活かしています。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b	b
	A-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び 虐待の予防に努めている。	a	b
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	a

[自由記述欄]

・0～2歳児は連絡ノートで家庭と情報交換を行っています。全学年クラス懇談会を計画していましたが、コロナ禍のためその取り組みが困難となったため、保育の様子を撮影し、映像と文書で保育の様子を知らせるなど、記録の内容が一人一人で差異が生じないように配慮しています。記録は主任やクラスのチーフが確認しています。今後は職員の誰もが分かるように記録する内容の基準を設けるとより良いでしょう。

・虐待についてのマニュアルを整備し、関係機関と連携を取りながら早期発見や予防に職員全員が努めています。今後は職員が保護者や子どもへ、さらに細心の注意を払う意識を共有されるよう研修などを実施されると良いでしょう。

・保育者は年度当初に自己評価の目標を定め、3ヶ月毎に自己評価を振り返り保育実践の改善や専門性の向上に努めています。またその振り返りを保育士同士で相互に共有し、園全体の自己評価に繋げ、組織的にPDCAサイクルを行い、保育の質の向上に取り組んでいます。